

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報 6

1988年度

1989年10月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報 6

1988年度

1989年10月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

## 序

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターは前身である埋蔵文化財調査室を含めると6年半、大学の正規の機関のセンターに改組されて2年を迎えることになります。学齢に達するまでに賜りました全学の深い御理解と御援助に対して、深甚の感謝を申し上げますと共に、今後の調査研究活動に対しまして、更なる御理解と御支援をお願い申し上げます次第であります。

ここに収録しましたものは、本センターが1988年度において行いました岡山大学津島キャンパスの3つの構内遺跡、すなわち、大学院自然科学研究科棟・工学部情報工学科校舎・工学部生物応用工学科校舎の建物新営に伴う遺跡の調査結果を中心に、本センターの同年度における活動の経過報告をまとめたものであります。

発掘された遺跡の調査研究の結果につきましては、共有の遺産として速やかに報告書として詳細に公表することが当然であります。整理には時間を要することも事実であります。年報は本報告書に先立って、こうした要請に応えるための処置でもあることを御理解頂きたいと思っております。

最後になりましたが、本センターの調査研究に際しましては、直接・間接に御協力・御指導を賜りました岡山県教育委員会文化課・岡山県総務部県史編纂室・岡山市教育委員会文化課・岡山大学文学部考古学研究室をはじめ関係機関、関係各位に厚く御礼を申し上げます次第であります。

1989年10月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

高 重 進

## 例 言

- 1 本年報は岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（旧岡山大学埋蔵文化財調査室）が岡山大学構内において1988年4月1日から1989年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および活動成果をまとめたものである。
- 2 大学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、設定基準を次のように定めた。
  - 1) 津島地区では、国土座標第5座標系（ $X = -144,500$ ,  $Y = -37,000$ ）を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設置した。一辺50mの方形地区割である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に二分する（図版1～3）。
  - 2) 鹿田地区では、国土座標第5座標系（ $X = -149,800$ ,  $Y = -37,400$ ）を起点とし、座標軸を $N15^{\circ}E$ に振ったものを基軸とした構内座標を設置した。地区割は一辺5mの方形を用いている。（図版4）。
  - 3) 本文中で用いる方位は津島地区・鹿田地区ともに真北を使用している。
- 3 岡山大学構内および関連施設内の名称は、農学部旧演習林内に分布する古墳群などの周知の遺跡の場合はそのまま踏襲し、津島地区構内で新たに発見された遺跡は、遺存する小字名を用いるか、岡山大学津島地区遺跡群と仮称して、地点ごとに任意の記号をもって示している。また、鹿田地区では全域において、これまで称されてきた「鹿田遺跡」を用いている。
- 4 表に記載した所属部は、原則として各学部 of 頭文字を略号として用いている。
- 5 本文・目次・挿図・図版などで使用の調査番号は表1と一致する。
- 6 遺物観察表の胎土は微砂：0.5mm以下，細砂：0.5～1.0mm，粗砂：1.0～2.0mm，細礫：2.0mm以上を指す。
- 7 遺構実測は入倉徳裕・絹川一徳・高橋進一・竹内浩一・土井基司・中塚孝信・福田真久・藤原千鶴・前原伸也・安井宣也・若林卓が行い、遺構・遺物の浄写は各報告者が担当した。
- 8 本文は第1・3・4章を山本悦世が執筆し、第2章を石坂俊郎・絹川・土井・藤原・安井・山本・若林が分担した。執筆者名は末尾に記した。
- 9 調査・研究活動は近藤義郎前センター長，編集は高重進センター長・新納泉室長の指導のもとに山本が担当した。
- 10 本年報に掲載の津島地区の地形図は岡山市発行の1/2500の地図を複製したものである。
- 11 調査・整理において以下の方々にご援助・教示を頂いた。記して感謝申し上げる。  
栗谷聡，稲田孝司，扇崎由，五味田裕，高橋学，千葉喬三，千葉豊，時枝克安，根木修，  
平井勝，古野勝志，圓山裕，村上幸雄

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報 6 1988年度

## 目 次

第1章	岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項 .....	1
1	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規定 .....	1
2	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規定 .....	2
3	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規定 .....	4
第2章	1988年度岡山大学構内遺跡調査報告 .....	7
1	調査の概要 .....	7
2	発掘調査 .....	9
	① 大学院自然科学研究科棟新営に伴う発掘調査 .....	9
	② 工学部生物応用工学科校舎新営に伴う発掘調査 .....	16
	③ 工学部情報工学科校舎新営に伴う発掘調査 .....	18
3	試掘調査 .....	24
	① 工学部校舎予定地 .....	24
	② 農学部動物実験施設及び薬学部遺伝子実験施設予定地 .....	27
	③ 国際交流会館予定地 .....	29
4	立会調査 .....	30
	(1) 津島地区 .....	30
	(2) 鹿田地区 .....	30
5	その他の活動 .....	30
	(1) 鹿田地区建物配置状況の平板測量 .....	30
	(2) 科学的保存処理 .....	31
第3章	1988年度普及・研究・資料整理活動 .....	34
1	資料整理 .....	34
2	刊行物 .....	34
3	調査員の活動 .....	34
4	日誌抄 .....	36
5	遺物収蔵量および保管施設 .....	37
第4章	1988年度構内遺跡の調査および活動のまとめ .....	39

附 表 .....	40
附 編 竪穴系横口式石室小考.....	45

## 挿 図 目 次

図 1 大学院自然科学研究科棟予定地 土層柱状図 .....	10
図 2 遺構全体図 .....	13
図 3 出土遺物 .....	14
図 4 工学部生物応用工学科校舎予定地 土層柱状図 .....	17
図 5 6 層上面遺構検出状況 .....	17
図 6 工学部情報工学科校舎予定地 土層柱状図 .....	19
図 7 遺構全体図 .....	20
図 8 13層上面遺構検出状況 .....	21
図 9 出土遺物 .....	21
図10 1 号炉 平・断面図 .....	22
図11 工学部校舎予定地 試掘調査地点図 .....	24
図12 土層柱状図 .....	25
図13 出土遺物 .....	26
図14 農・薬学部実験施設予定地 試掘調査地点図 .....	27
図15 土層断面図 .....	27
図16 遺構検出状況 .....	28
図17 出土遺物 .....	28
図18 国際交流会館予定地 試掘調査地点図・土層柱状図 .....	29
図19 立会調査②③ 土層柱状図 .....	30

## 表 目 次

表 1	1988年度調査一覧 .....	7
表 2	大学院自然科学研究科棟出土遺物観察表 .....	15
表 3	両ウレタン比較表 .....	33
表 4	埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要 .....	38
附表 1	1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度） .....	40
附表 2	1987年度以前の構内主要調査（1983～1987年度） .....	40
附表 2－(1)	発掘調査 .....	40
附表 2－(2)	試掘調査 .....	41
附表 2－(3)	立会調査 .....	42
附表 3	埋蔵文化財調査室刊行物 .....	44
附表 4	埋蔵文化財調査研究センター刊行物 .....	44

## 図 版 目 次

図版 1	津島地区全体図
図版 2	津島北地区
図版 3	津島南地区
図版 4	鹿田地区全体図
図版 5	津島地区（大学院自然科学研究科棟予定地発掘調査）
1	7層上面弥生時代水田検出状況（気球写真 上が北）
2	8層上面西半部弥生時代水田検出状況（西から）
図版 6	津島地区（大学院自然科学研究科棟予定地発掘調査）
1	縄文時代後期貯蔵穴群検出状況（東から）
2	貯蔵穴 2（東から）

図版 7 津島地区 (大学院自然科学研究科棟予定地発掘調査)

1 貯蔵穴 1 (北から)

2 出土遺物

図版 8 津島地区 (工学部生物応用工学科校舎予定地発掘調査)

1 古代溝完掘状況 (東から)

2 古代溝杭出土状況 (北から)

3 古代溝木器出土状況 (西から)

図版 9 津島地区 (工学部情報工学科校舎予定地発掘調査)

1 9層上面水田遺構検出状況 (南から)

2 10層上面水田遺構検出状況 (東から)

図版 10 津島地区 (工学部情報工学科校舎予定地発掘調査)

1 11層上面弥生時代水田検出状況 (南から)

2 1号炉址 (北から)

図版 11 津島地区 (工学部情報工学科校舎予定地発掘調査)

1 13層上面縄文時代遺構検出状況 (調査区東側, 北から)

2 13層上面縄文時代遺構検出状況 (調査区西側, 北から)